IGAS2018 見どころ

テーマは印刷業界に革新

デジタル加飾機などを出品

デュプロ

㈱デュプロ（神奈川県相模原市）は、IGAS2018において、「BRING INNOVATION 印刷業界に革新をもたらすデュプロ」をテーマに、顧客のビジネススタイルに変革をもたらす多彩なソリューションを提案していく（東2ホール、2―3）。

同社では、簡単操作で印刷物にスポットニスによる厚盛印刷効果を演出することができるデジタルスポットUVニスコーター「DDC―810」を出品する。

デジタル技術の進化により各種プロダクションプリンターは、オフセット印刷同等の品質提供可能となったことから導入が加速している。さらに近年では、他社と差別化をするべく、印刷物に表面加工や特殊印刷を施し、その商品価値をさらに高めていく「デジタル加飾」が注目を集めている。そのような市場状況を踏まえ、付加価値印刷の1種である厚盛印刷効果を与える次世代のデジタルスポットUVコーターとして開発されたのが「DDC―810」である。

「DDC―810」は、版（刷版）の不要なUVインクジェット方式により、デジタルデータからスポットニス加工が、誰でもかんたんに素早く1枚から加工することが可能。艶のあるニス加工が、シズル感を与え、かつ触れてみたくなる表現を実現し、印刷物の付加価値を高める効果を演出することができる。

最薄約20から最大約80ミクロン（紙質により制限あり）の厚盛スポットニス加工が可能で、また、印字データに濃淡をつけることで1枚のシート内で厚さの可変も可能となっている。

見当精度については、同機に搭載された高精度CCDカメラ（2個）が、用紙に印字されたレジストレーションマークを読み取ることで、事前印字内容の位置・斜行・拡大・縮小状況を把握する。把握したデータと元の印字データに基づき、デュプロ独自の補正技術が、正確に印字を合わせ、高い見当精度を実現する。

様々な使用環境を考慮し、プロの現場で求められる機能を凝縮しながら、高いパフォーマンスを引き出すことを考えたコンパクト設計（省スペース化）を実現している。

操作性については、誰でもかんたん操作ができるようにイラストや図を活用した直感的な操作性を追求。印字データの読み込み、機械のスタート／ストップ、印字位置の微調整、印字コスト算出など、すべてPC上で一括管理することができる。

そのほか同社では、インクジェットアドレスプリンターや多機能断裁機、高速糊付け三方封函機などを出品する。

デジタルスポット UV ニスコーター「DDC-810」

高付加価値DMサンプル展示

両面可変印字への対応もアピール

メイセイプリント

㈱メイセイプリント（本社／愛知県北名古屋市、渡辺達也社長）は、型抜き加工を施したオリジナルDMを紹介するとともに、両面可変印字にも対応する同社の取り組みを紹介する。ブース（東6ホール6―25）では、付加価値の高いサンプルを展示する。

同社は圧着DM印刷加工のトップメーカーとして知られる企業。名古屋本社に3ライン、関東工場に2ラインの合計5ラインのニス圧着ラインを保有し、月産700万通の圧着DMの生産を可能としている。折りや抜きの加工を施した様々な圧着DMのバリエーションは20種類以上を取り揃えており、さらに昨今では形やサイズ、折り方などを工夫したDMサンプルも数多くラインアップしている。

同社の宛名印字機「MPS2000D」は、3台の検査カメラを搭載しているため、個人情報の間違いをシステムとしてチェックできる。このため100％確実な表裏の印字が可能。また、圧着ニス面への直接バリアブル印字が可能であるほか、水性インクでは直接印字が難しいJANコードやコード39、NW7などのバーコードを綺麗に直接印字できるため、工程短縮による生産性向上とコスト削減を実現する。

また、1ヘッドで8インチ幅までの印字が可能であるため、圧着ハガキにも広い範囲でバリアブル印字が可能。最大A4―6Pの展開印字も可能になり、さらに広い範囲のバリアブル印字が可能となっている。

IGAS展の狙いとして、同社では「様々なサンプルを展示し、その中でユーザーニーズを聞き、その声を通販サイト『圧着Dm．net』にも反映させていきたい。また価格だけでなく、大ロットを短納期生産できる対応力と品質で信頼を築いてきた当社のアピールに努めていきたい」としている。

新たな市場領域に挑戦

軟包装用水性IJ機を技術展示

ミヤコシ

㈱ミヤコシ（宮腰亨社長）はIGAS2018において、「Explore the future e―ミヤコシグループがデジタルとオフセットで新たなビジネスの創出を提案」をテーマにデジタル印刷機2機種とオフセット印刷機1機種の計3台を出品する（東5ホール、5―2）。今回、同社・執行役員営業本部副本部長兼アライアンスプロジェクト営業部長の天野剛氏と営業本部L&I営業課・課長代理の藤谷慎氏に出品する各印刷機の開発コンセプトなどについて聞いた。

同社ブースでは、今回、オフセットとデジタルの最新3機種を展示する。デジタル印刷機では、フルカラー水性インクジェットプリンター「MJP20AXW」と技術展示として軟包装向けフルカラー水性インクジェットプリンター「MJP30AXF」を出品する。

MJP20AXWは、業界最高クラスとなる1200×1200dpiの画質で毎分200mの超高速印刷を実現。印刷品質と用紙適応性を引き上げるインラインコーターを搭載し、幅広いメディアに対応する。

同機は、昨年開催のオープンハウスでも紹介されているがIGASではプリントヘッドを微調整するとともにインクを改良し、より高画質化を図ったモデルを展示する。

トランザクション分野のデジタル印刷機で強みを持つ同社であるが、天野氏は「今後は、インクジェットによる書籍印刷分野にも積極的にアプローチしていきたい。国内市場で見れば現在、流通している文庫本などは漢字をほじめ、細かな活字が使用されている。これを600dpiで出力すると滲みが生じる可能性がある。しかし、1200dpiによる出力であればアンカーコート処理を施すことで文字品質も飛躍的に向上する」と高生産性と高画質の機能を生かし、書籍印刷分野にも積極的に提案していく考えを明らかにした。

天野 氏

藤谷 氏

MJP20AXW

MJP30AXF

MLP10L

水性インクジェットラベル印刷システムも

技術展示として紹介するのが、軟包装向けフルカラーの水性インクジェットプリンタ「MJP30AXF」だ。

紙媒体が減少傾向にある中、同社では新たな市場開拓としてシール・ラベルや軟包装パッケージなどの生活産業分野における製品開発に注力している。

この分野では、富士フイルムと協力して軟包装用のUVインクジェットデジタル印刷機を開発し、すでに導入実績もあるが、今回のMJP30AXFでこだわったのは水性顔料インクによる印刷だと天野氏は説明する。

「海外に目を向けたときにUVインク方式では、ワールドワイドでの安全基準に必ずしも合致できないこともある。その課題を解決する手法として、水性顔料インクを採用した軟包装用インクジェット印刷機の開発に着手した。フィルム基材に対し、水性顔料インクで印刷を行う技術については、まだまだ高いハードルである。しかし、MJP30AXFは、ミヤコシとして今後、こういった技術を開発していくという指針を示すことを目的としている」

今回、技術展示するモデルは、KCMY＋WWの仕様で解像度は、1200×1200dpi、印刷幅は、750mmまでに対応する。対象機材は12μの薄手のフィルムから厚手のハードパッケージまで可能。また、インラインコロナと印刷品質と基材適応性を引き上げるインラインコーターを搭載し、幅広いメディアに対応する。

印刷速度については、スペック上100m／分としているが、プロトタイプであるため、会場では速度を下げて稼働実演を披露する予定である。しかし、100m／分の生産性を実現するための開発は、継続して行っていく。

導入しやすいエントリーモデルを発表

そしてオフセット印刷機では、ラベル用オフセット間欠輪転機「MLPシリーズ」の新型機として「MLP10L」を出品する。

MLPシリーズは、国内外でおよそ100台が稼働しており、その生産性と印刷品質は高く評価されている。しかし、国内ユーザーからは、機械サイズが大きく、日本市場向きではないとの指摘が寄せられていた。その課題を解決するために開発されたのがMLP10Lだと藤谷氏は説明する。

「国内ユーザーからは、機能性は評価するものの設備コストを考えると、とても手が出せないといった意見も頂いている。結果として当社は、新台導入の機種選定のテーブルにも上がれないことが多々あった。そこで現状の印刷品質を維持しつつ、機械サイズの小型化をコンセプトに開発されたのがMLP10Lである」

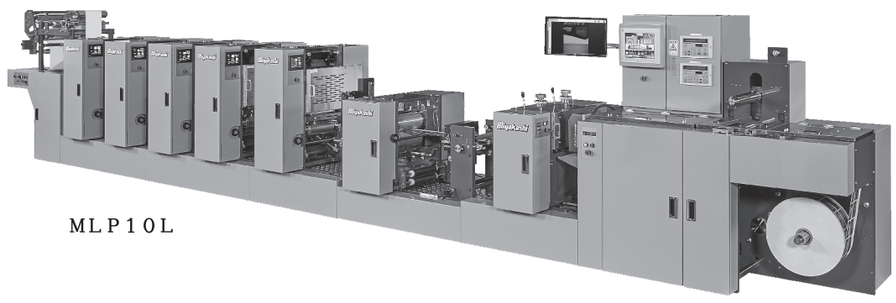
MLP10Lは、可能な限りのスペックダウンを実施したことで機械サイズの小型を実現。ユニット構成は、給紙＋オフ5＋フレキソ＋ダイロール＋カス上げ＋巻の構成で、近年増加傾向にある変形カス上げのデモンストレーションを行う予定。また、生産性については、毎分120ショットを実現している。

IGAS終了後、MLP10Lは機械の微調整を施した上で、同社の八千代工場（千葉県八千代市）のショールームに移設される予定。

「今後は希望があれば、実機の稼働体験もすることができる。また、オフセット印刷機は初めて、というオペレータ教育の場としても活用していきたい」（藤谷氏）

同社は今年2月、秋田で内覧会を開催し、軟包装用のオフセット印刷機を披露しているがIGASでは、軟包装用の水なしオフセット印刷機の動画をブースで公開していく予定。さらに年内には、新たな内覧会の開催も計画している。

シール・ラベル用間欠オフセット輪転機
MLP10L
従来の「MLPseries」の高機能を継承しながら
小型化・低価格化を実現


MLP10L

次世代水性フルカラー
インクジェットプリンター
MJP20AXW
DPS・商印の全領域をデジタル化すべく
開発された最新のハイエンドモデル

デジタル と オフセット で
新たなビジネスの創出を提案します

軟包装向け水性フルカラー
インクジェットプリンター
MJP30AXF
軟包装パッケージの少量多品種を
強力にサポート

MJP30AXF

MJP20AXW

お客様の喜び・満足を創造する
株式会社ミヤコシ
〒275-0016　千葉県習志野市津田沼 1-13-5　TEL:047-493-3854
http://www.miyakoshi.co.jp

IGAS2018
INTERNATIONAL GRAPHIC ARTS SHOW
7.26[THU.]-31[TUE.].2018 | TOKYO BIG SIGHT [東京ビッグサイト]
ミヤコシ出展ブース
東5ホール　No.5-2
皆様のご来場を心よりお待ちしております。